

こどもの森の利用案内

- ★ こどもの森は、時間中いつ来ていつ帰っても OK。お金はかかりません。
- ★ こどもの森にある道具は自由に使えます。使い終わったら片づけてね。
- ★ おやつやお弁当を食べることもできます。ごみは持って帰ってね。
- ★ 汚れてもいい服や靴で来てね。着替えもあるといいよ。
- ★ なくなったら困る大事なものは、おうちにおいてくるか身に付けて遊んでね。



大人のみなさんへ

こどもの森から保護者のみなさんへのお便りです



「流れていく」から あそびは面白い！

小学2年生の男子2人が棒でチャンバラを始めた。最初は2人で戦っていたが、次第に落ちてくる葉っぱや、片隅に茂っている雑草に戦いを挑みはじめた。

「メッチャ楽しそうだねえ、草と戦っているの？」

その子たちに声をかけると、口々に「俺の剣(もちろん棒)は、たくさん草が切れるんだ！」「必殺〇△～!! こんなに切れたぞ！」と世界はどんどん広がっていく。どれだけ草が切れるか競っているうち、草を素手で引き抜くように。

「俺こんなに集めたぜ！」「オレだってこんなにたくさん！」

さっきまで振り回していた棒はそっちのけで、草ぬき大会になり、あっという間に雑草が茂っていたスペースはすっかりきれいなになっていた。草はだんだんと山になり、気がつくとも草のベッドに変身しているではないか。

「すごい気持ちいいよ！」

寝転がる彼らの笑顔はとても満足そうだった。

あそびは変わっていい。変われるのがいい。

チャンバラから始まったのに、最後はなんと草むしり。草むしりなんて、多くの人にとって「面倒くさくて嫌なもの」ですよ。でも、この子たちは超！楽しそうに草を抜いていました。楽しいからやる。ただそれだけ。すごくシンプルで子どもらしいと思いませんか？

「こうあるべき」が何もない中で、どんどん流れて変化していく遊びが、見ていて痛快でした。

心のおもむくまま 楽しい方へ流れていこう。

こどもの森では、何をするかプログラムのようなものはありません。その日来たこどもと一緒に、何が楽しいかを探りながらあそんでいます。ひとつのことにじっくり集中する子もいれば、次々やることを変える子もいます。もっと楽しいと感じるほうへ、どんどん流れていけばいい、そう思っています。自分が何が楽しいか探ることは、自分を知ることでもあるからです。

一人一人がそれぞれの「楽しさ」を発見できるといいな！プレーリーダーが毎日みんなを待ってるよ！



クギさし大会 それぞれの秘めた想い

クギさし。5寸クギを地面に投げて刺し、相手のクギを倒すというシンプルな遊び。お金をかければ強くなるものではなく、また年齢や体格差は関係ない。練習するだけうまくなり、自分の力だけで相手を倒せる。



はる

8月の燃えるような暑さの中、恒例のクギさし大会が開催された。初参戦の小学1年生。彼は夏休み中、毎日「クギ貸して!!」とやってきた。私が適当に取ってハイと渡したクギでは納得せず、熱心に「いいクギ」を選ぶのが彼の流儀である。緊張の面持ちで練習をしたり、クギをグッと握りしめて木陰で精神統一したりする姿はアスリートのようだ。

一方で、「あんなチビが優勝したらクギさし大会の名がすたる」と、大会の常連で優勝経験もある4年生。言葉は悪いが、彼にだって優勝までのストーリーがある。彼は、開始時刻を気にしながら入り口をチラチラうかがっていた。開始までに強敵が来なければ、自分が優勝する確率がグッと上がるからだ。「あいつら戻ってくるかな。いや……」ブツブツブツ。

彼が気にしている強敵とは、中学生たち。朝一度顔を出したが、プールに行くといって姿を消していた。

開始5分前。「はる、クギ出して！」と叫びながら門をくぐる中学生。しっかり、大会に合わせて行動していたのである。たちまち「あー！来ちゃった!!」と笑う4年生。その様子を見て更に緊張が高まる1年生。参戦者が揃った。

結果は、1年生は早々に敗北。4年生も、決勝で惜しくも敗退。小学生のころから続けてきた中学生が優勝した。

終了後、1年生の男の子はすぐに練習を始めていた。みんなのいろんな想いが、はるには見える。

さあ、来月はどうなる!?



こどもの森は、身近な自然のなか、子どもたちの発想で自由に遊べる緑地です。何を、どうやって遊ぶか？を、子ども自身が決められるよう、なるべく手や口を出さずに見守ってあげてくださいね。心配なこと、わからないことは、プレーリーダーにどうぞ声をかけてください。